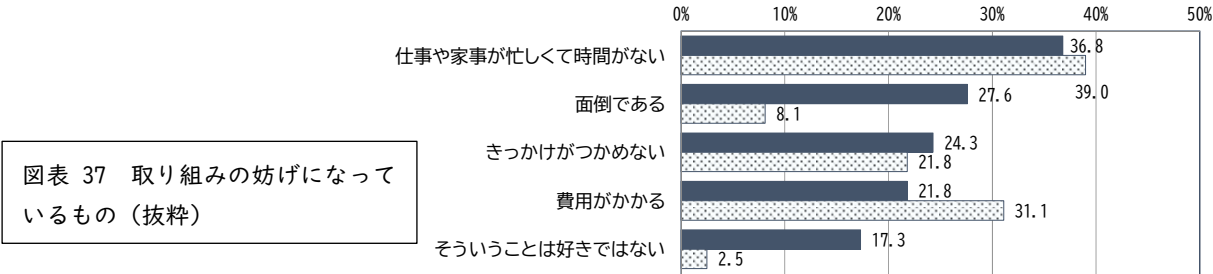
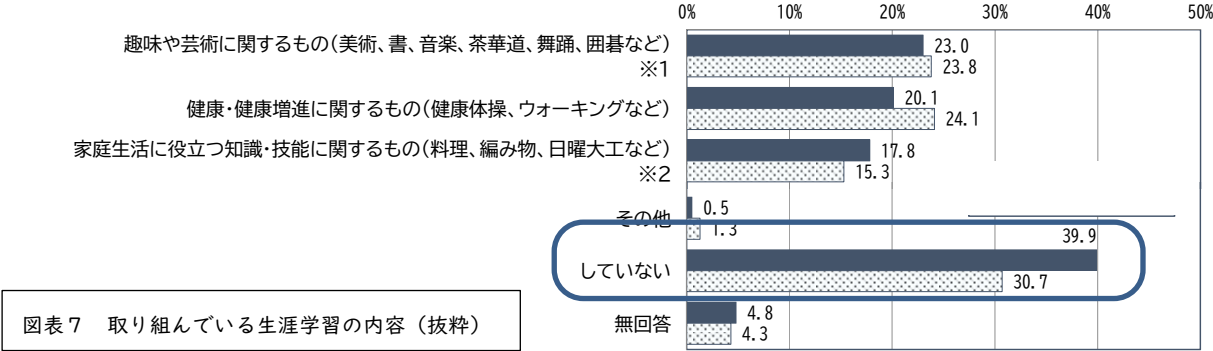


生涯学習に関する市民アンケート調査結果から 見る現状と課題

1 生涯学習活動の取り組み状況について



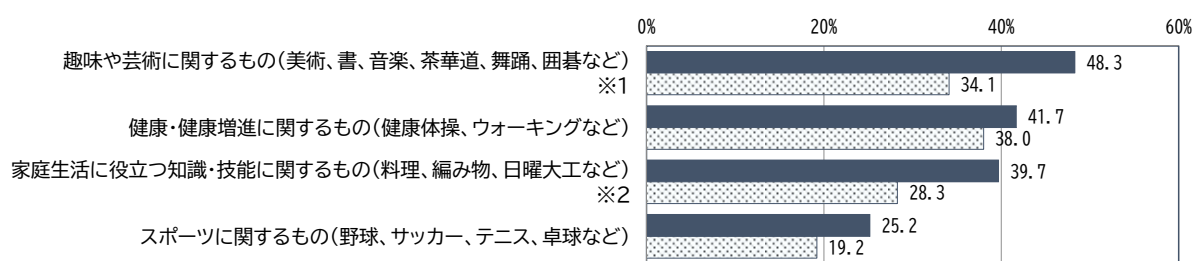
【現状】

- ・現在取り組んでいる生涯学習活動は何かとの問いに対し、39.9%の人が「していない」と回答しており、平成 28 年度実施のアンケート調査（以下、「前回調査」という。）と比べ、9.2%増加している。また、年代別にみると、30～50 代でその割合が高くなっている。〈問 1〉
- ・生涯学習に取り組んでいる方法として、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオを活用した個人学習」が最も多く、「同好のグループ・サークルなどへの参加」は前回調査と比べて 6.4 ポイント減少している。誰かと一緒に行くというより、個人の興味に合わせた学習方法がとられている。〈問 1-2〉
- ・今後、生涯学習に取り組みたいと思わない人は全体の 31.4%で、取り組もうとする際に妨げになっていることとして「仕事や家事が忙しくて時間がない」が 36.8%、「きっかけがない」が 24.3%となった。また、前回調査と比べ、「面倒である」「そういうことが好きではない」と答えた人の割合が高くなっている。〈問 3-4〉
- ・自由意見として、「生涯学習」について、高齢者、主婦など時間的余裕がある人が行うもの、「生涯学習」という言葉を今回初めて知った、敷居が高い、堅苦しいイメージがあるとの意見があった。

【課題】

- 「生涯学習」という言葉の認知不足
- 生涯学習に取り組みたくなるような工夫が必要
 - ・各世代のライフスタイルに応じた講座の内容や時間など参加しやすい工夫
 - ・空き時間や短い時間でも学べる取り組み
 - ・時間や場所にとらわれない学習機会の提供（動画による学習など）
 - ・きっかけづくり（情報発信、初心者向け講座）

2 学習ニーズ（学習内容、手段等）について



図表 33 今後機会を増やしたい学習の内容（抜粋）

【現状】

- ・今後、どのような手段で取り組みたいかとの質問に対して、「市や地域団体が開催する講座・教室」が 47.9%で、市などが開く講座に対する期待値は高い。〈問 3-1〉
- ・今後、機会を増やしたい学習の内容として、「趣味や芸術に関するもの」「健康、健康増進にするもの」「家庭生活に役立つ知識・技能に関するもの」が多くなっている。年代別に見ると 20～30 代で「スポーツに関するもの」「子育て、教育に関するもの」が、70 代以上で「文学・歴史・自然科学などの教養に関するもの」が多くなっており、様々なニーズが混在し、求められる学習内容は多岐にわたる。また、環境などの社会問題、福祉、障がい、男女共同参画等に関するものなど、割合は高くないが、持続可能な社会に向けて必要な課題解決のため、今後より関心を持ってもらう必要がある。〈問 3-2〉
- ・市が行う講座で重要な点として、「たくさんの種類があり、希望のテーマが選択できること」、「安い費用で受講できること」、「土日などの休日に開催する講座の実施」の割合が高い。〈問 7〉

- ・生涯学習を盛んにするために市が力を入れるべきこととして、「生涯学習講座の内容の充実」が最も高くなっている。〈問8〉
- ・今後、生涯学習を進めるうえで特に力を入れるべき分野について、「健康に関すること」が36.2%と最も高く、次いで、「芸術・文化に関すること」、「防災・安全に関すること」となっている。年代別にみると、健康に関することは40代以上で割合が高く、10代では「ICTに関すること」、20～30代では「幼児教育」が多くなっている。〈問9〉
- ・自由意見として実施してほしい内容としては、以下のとおり記載があった。またできるようになったことを発表したり、資格が取れたりするとやりがいがあるなどの意見もあった。

〈実施してほしい内容〉

地域に根ざした学習（郷土の歴史、地域の文化財、書）、外国人や異文化と触れ合う機会、英会話、ハングル、介護予防だけでなく介護する者の知識、環境問題、趣味・興味から始めるものづくり、これまでにない新しい内容（動画編集など） など。

【課題】

- 多様なニーズに応じた学習内容の充実が必要
- ライフステージ、ライフスタイルに合わせた学習機会の提供
- 社会的課題に対する学習機会の提供と参加促進が必要
- やりがい、継続的な学びの場の提供、学習成果が見える形に

3 オンライン講座

【現状】

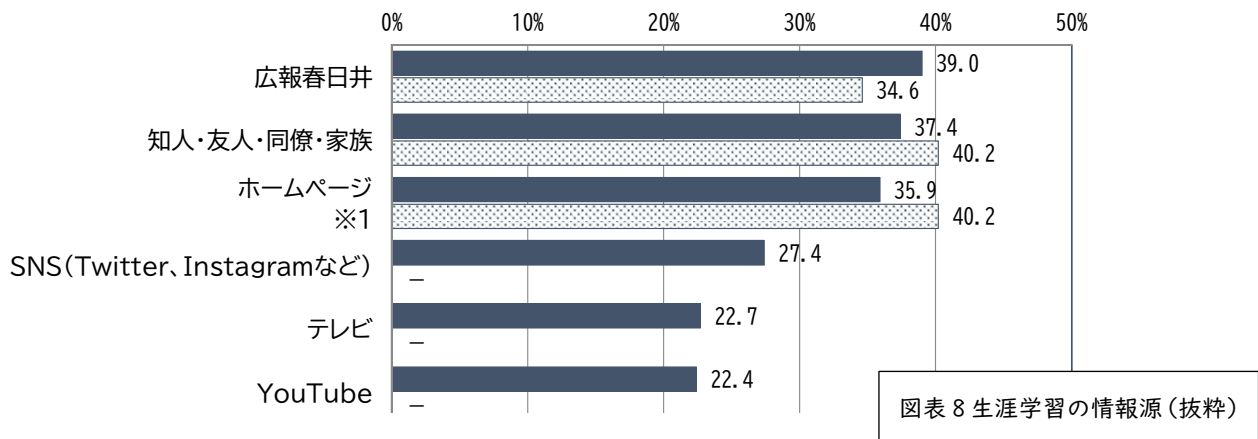
- ・現在、生涯学習に取り組んでいる方法として、「パソコンやスマートフォンによるオンライン講座」と答えた人は、生涯学習に取り組んでいる人の20.3%となっており、約2割の人が何らかのオンライン講座を受けている。〈問1-2〉
- ・今後、生涯学習に取り組みたいと思っている人の32.2%がオンライン講座による方法で取り組みたいとしている。〈問3-1〉
- ・市が行う講座で重要だと思う点について、年代別にみると、10～20代で「インターネット（オンライン）で受講できること」が多くなっている。〈問7〉
- ・自由意見として、「気軽に参加できるオンライン講座を設けてはどうか」、「初め

はオンラインで参加して、慣れたら実際に足を運んでもらう」といった、きっかけづくりをオンライン講座で行ってはどうかとの意見があった。

【課題】

- ニーズの把握
- 施設設備の整備（配信可能なインターネット環境、機材等の整備）
- 施設職員のスキルアップ（ZOOM 等での配信、動画編集など）

4 生涯学習に関する情報発信について



【現状】

- ・生涯学習の情報源として、「広報春日井」「知人・友人・同僚・家族」「ホームページ」の割合が高い。SNS や YouTube など新たな媒体で情報を得ている人も多い。年代別にみると、10～30代で「SNS (Twitter, Instagram)」、「YouTube」、30～50代で「ホームページ」、60代以上で「広報春日井」が多くなっている。〈問 1-2〉
- ・学習活動を通じて身に付けた意識・技能や経験を生かすにあたって、困っている点や生かしたいのにそれができていない理由として、「身近で生かせる活動や場所を見つけられない」が 26.6%、「どのような活動に生かせるのかわからない」が 18.5%となっており、身につけた技術や技能を生かすための情報を入手できていない。〈問 2-3〉
- ・生涯学習活動の取り組みの妨げになっているものとして、「必要な情報がなかなか入手できない」が 11.4%で、前回調査の 19.4%から減少しているものの、情報が不足していると感じている人がある。〈問 3-4〉
- ・生涯学習情報サイト「まなびや選科」の認知度が低い (8.3%)。〈問 4〉
- ・生涯学習を盛んにするために必要な学習情報として、「市の講座の内容や開催に関

する情報」が63.5%と非常に高く、広報活動の充実が必要である。〈問8〉

- ・生涯学習を盛んにするために力を入れるべき内容として、「生涯学習に関する情報発信」が2番目に重要であるとしており、市民が講座、サークル、人材情報など生涯学習に関する様々な情報を入手できるよう発信する必要がある。〈問10〉
- ・自由意見としては、「1人暮らしの高齢者など情報が入りにくい人にも情報が渡るようにする」、「PRをいろんな所で行って、目につく機会を増やす」「学習内容や対象に応じて情報を発信する媒体を分けていくと良い」「文字だけではなく、写真などで様子が分かると魅力が伝わり、参加しやすくなる」などの意見があった。

【課題】

- 時代に合わせた手法を採り入れた情報発信が必要
 - ・ 広報・チラシ・民間地域情報誌などの紙媒体や、ホームページ・SNSなどのインターネットを介する媒体など、さまざまな媒体を活用した情報発信
 - ・ 世代に合わせた情報発信
- 親しみやすく、分かりやすい情報の提供が必要
 - ・ 講座や団体の活動を画像や動画を用いて分かりやすく紹介したり、実際に参加、活動している人の声を発信したりするなど興味を持ってもらえるような工夫

5 公民館、ふれあいセンター等の施設利用について

【現状】

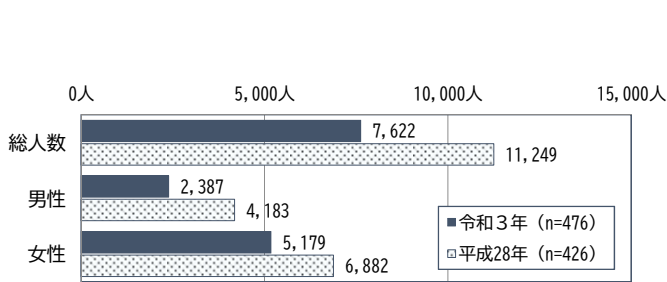
- ・公民館、ふれあいセンター等の利用について、約6割の人が利用したことがあるとしている。30～60代の男性の割合が低い。利用目的としては「住民票、証明書等の発行」が54.6%、「図書室の利用」が45.6%と多い。一方で、講座や貸館、公民館まつりへの参加など生涯学習を目的とした利用はやや少ない。〈問5、5-2〉
- ・公民館、ふれあいセンター等の施設を利用していない理由として、「利用の仕方がわからない」が25.3%、「講座等に関する情報がない」が14.9%で、施設利用に係る情報が不足している。特に若年層で、他の年代に比べ情報がないと感じている割合が高い。〈問5-3〉
- ・施設に求めるもの、機能として、「開催する講座の充実」が39.0%と最も高く、次いで、「インターネット環境」「図書室の蔵書の充実」「地域住民が交流できる場・機会」が多くなっている。〈問6〉

- ・生涯学習活動団体の会員数が減少し、高齢化している。〈団体アンケート〉

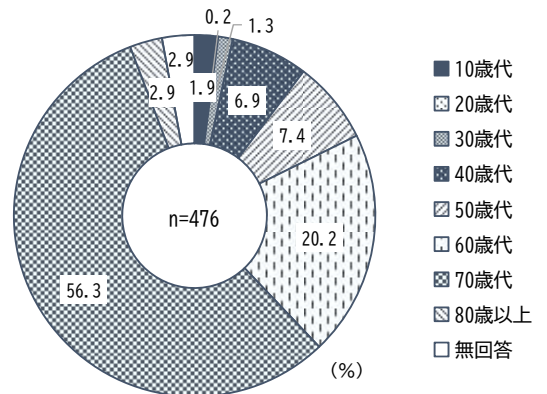
【課題】

- 施設の魅力向上
 - ・証明書等の発行等で施設を訪れた人やこれまで利用していない人でも気軽に活用してもらえるような魅力ある施設へ
 - ・新たな利用者の獲得
 - 利便性の向上、新たな交流の創出、関心・愛着の醸成
- 施設の情報発信

6 生涯学習活動団体について（団体アンケート結果より）



図表 65 団体の人数（総数、男女数）



図表 66 団体の一番多い年齢層

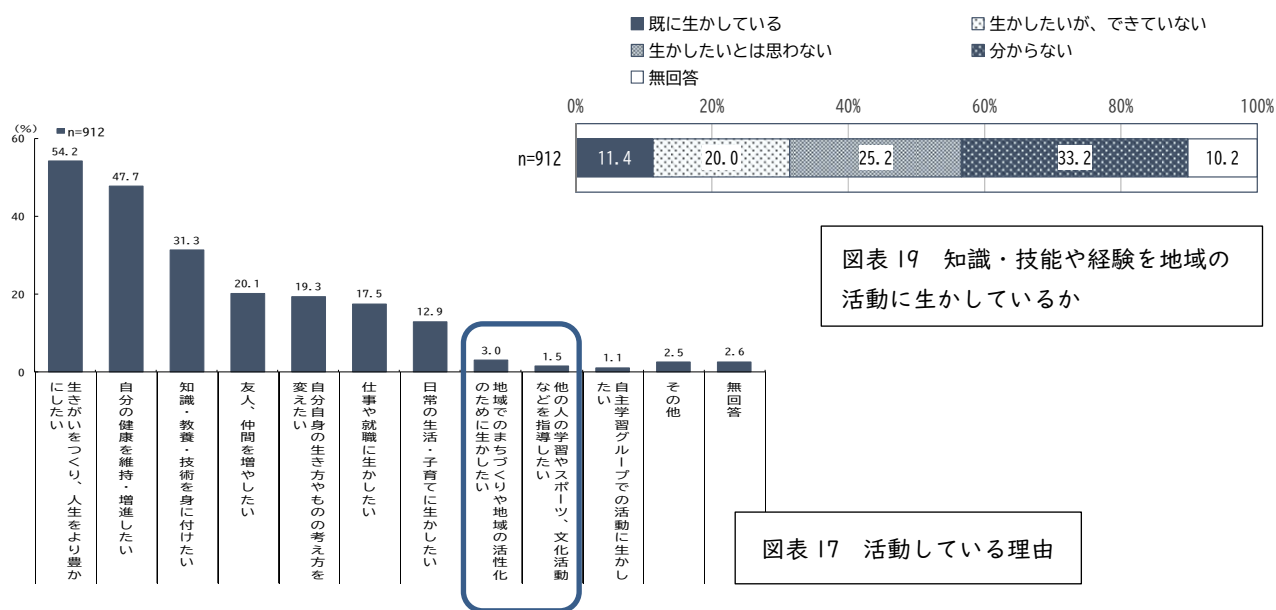
【現状】

- ・団体の会員数が減少している。
- ・多くの分野で、会員の高齢化、新規会員が加入しないことが課題としている。
- ・健康・スポーツ分野は各施設のホール（体育館）を利用しているが、会場が確保しにくいとする割合が高い。
- ・団体活動していく上で、市に望むこととして、「会員募集の支援や活動についてのPR」が45.0%で最も高い。料理や健康・スポーツ分野の団体は、施設の設備の充実の割合が高くなっている。（料理教室、ホール）
- ・自由意見として、施設利用や予約の方法について（生涯学習活動団体の優先利用、インターネットからの予約）、会員募集など支援、交通手段の確保についての意見があった。

【課題】

- 生涯学習活動団体の支援
 - ・団体活動に関する情報発信や、活動している施設と連携した講座等の実施など、新規会員の確保に繋がる取組の推進

7 学んだ成果を生かせるまちづくり



- ・活動している理由として、「生きがいをつくり、人生を豊かにしたい」、「自分の健康を維持・増進したい」、「知識・教養・技術を身に付けたい」が多く、個人の楽しみや健康維持、スキルアップのために取り組んでいる人の割合が多い。一方、「友人・仲間を増やしたい」、「地域でのまちづくりや活性化のために生かしたい」など人的交流や地域のために活動している人の割合は低くなっている。〈問 1-4〉
- ・学習活動を通じて身につけた知識・技能や経験を生かしている、生かしたいと思っている人の割合は、合わせて 31.4%で、そのうち、「ボランティア活動をしている」が 35.7%、「活動の普及啓発を行っている」が 24.1%、「自治会町内会活動に生かしている」が 17.1%となっている。〈問 2〉
- ・生かしたいと思っている人のうち、自らが運営者となって講座の企画・運営に関わりたいとする人は、22.0%にとどまる。〈問 2-2〉
- ・学習活動を通じて身につけた意識・技能や経験を生かすにあたって、困っている点や生かしたいのにそれができていない理由として、「身近で生かせる活動や場所

を見つけられない」が 26.6%、「どのような活動に生かせるのかわからない」が 18.5%となっており、身につけた技術や技能を生かすための情報を入手できていない。〈 問 2-3 〉

【課題】

- 学んだ成果を他者や社会へ還元することに消極的である
 - ・ 地域活動の活性化、促進
- 生かせる場が見つけれない、生かし方がわからないなど、技術や経験を生かすための情報がない

★★ 重点課題 ★★

- ・ 市民に届く生涯学習情報の発信
- ・ ICTを活用した学習機会の提供
- ・ 利用しやすい施設、利用したくなる施設へ
- ・ 障がい者のための生涯学習機会の充実（国の施策）